



保健だより

キッズアカデミー保育園 28年度・1月号

あけましておめでとうございます。年末年始のお休みはいかがでしたか？不規則な生活習慣がついてしまった・・・という子どもさんはいませんか？毎日冷え込み、体調を崩しやすい時期です。気持ちも新たに、健康管理に留意しましょう。

○●○やけど○●○

(こんな時は病院へ)

★患部に衣服がくっついてはがれない

無理にはがさず、くっついた部分は残して切り取り、清潔なシーツなどでおおって外科か皮膚科へ。

★顔や陰部のやけど

特に気を使う場所。医師の適切な処置を。

★水ぶくれが500円玉より大きい

ガーゼなどで保護をして、外科へ。

★第2度(水ぶくれ、ただれ、激痛がある)以上のやけど

乳幼児は細菌に感染しやすいので、軽症と思っても念のため外科で受診を。

★低温やけど

意外と深いやけどになっていることもあるので、気づいたらすぐ冷やして外科へ。



(こんなときは救急車を)

- ・広い範囲にわたるやけど。
- ・体表面積10%以上のやけど。
(子どもの場合、腕や足1本の面積がほぼ10%)



やけどの応急手当



① 流水で冷やす

水道を流しっぱなしでとにかく冷やす(着衣の場合も同様)。痛みが和らぐまで。

② 衣服を脱がせる

ある程度冷えたら、患部をおおっている衣服、靴下などを脱がせる。生地が皮膚にはりついているときは、その部分を残して切り取る。



③ 患部を保護する

患部を清潔なガーゼでおおい、包帯をゆるめに巻く。水ぶくれや激痛があるような場合は、その後病院へ。皮膚が青白くなって痛みを感じやすいようなときは、救急車を。

